

アクティブシニア応援助成事業の平成20年度助成が決定した8つのグループのうち4グループの取り組みを紹介します。

やまさきもみじ祭りを 県内外に発信！

●住みよいまちづくりの会

女性ばかりのメンバーで、毎月勉強会を持ちながら、気付いたことを話し合い、行動につないできました。

地域の活気を取り戻し、山崎の自然の美しさを認識することを目的に、「やまさきもみじ祭り」を計画、実施しています。春には最上山公園にもみじの苗木を育て、9月からは11月のもみじ祭り実施に向けて準備に取り組んでいます。

これまで2回の祭りを実施しています。日頃は女性ばかりの活動ですが、当日は自治会や家族が応援しました。祭りを地域に根付かせ、広く伝えることで、自然豊かな元氣な地域づくりをめざしています。

“老い支度”の手助け という新しい発想

●スケッチ・１ー〇

「後期高齢者医療制度」がスタートするというニュースを聞き始めたころ、何かとかさむ生活経費に前途を悲観する高齢者の声にふれ、千種に住む身近なメンバーで「高齢者の見守り」の重要性を再確認しました。

取り組みは「高齢者の見守り」と「老い支度の手助け」。携帯電話を活用して、緊急時に駆けつけたり、暮らしに役立つ情報を提供したりする活動を計画中。現在は地域の高齢者を訪問し、個々の状況や要望を把握しています。

とても新しい発想で、地域に住む者同士の支え合いを具体的な活動にしています。

交通安全を呼びかける 同級生グループ

●染河内アクティブボラン ティアクラブ

グループの頭文字「S・A・V」をとって「サブクラブ」が愛称の同級生有志の会。年齢が50歳を越え、「大きく育ててもらった染河内に何か役立つことをしよう」と、地区内の交通安全のボランティア活動に取り組んでいます。地区入り口の下野田に交通安全

標語の看板設置に加え、県道沿いの空き缶やゴミ拾い、地区内のカーブミラー磨き等を計画。

9月25日には「秋の全国交通安全運動」にちなみ、「ゆっくり走ろう染河内」のステッカーを作成し、地区内のドライバーに配布し、交通安全を呼びかけました。

活動計画は、毎月の定例会で相談しています。同級生というつながりと地域を愛する気持ちがあふれた活動が根付いています。

めざすのは

気軽に集える居場所

●原ささゆりの会

波賀町原で、地区内の高齢者を中心に、ゆつくりとふれあい、語り合える居場所をつくることで、温かい人間関係を築きたいと、活動しています。

地元のリンゴ園を手伝ったり、健康体操や銭太鼓を習ったりと、意欲的な女性の集まりが、様々なボランティア活動への取り組みへと発展しました。

地域住民が寄り合う居場所は、高齢者の孤立化防止が期待できます。また、子どもたちが地域の人びとと交流することを通して、広い視野を育むことを望んでいます。